

**乙訓圏域障がい者自立支援協議会**  
**令和7年度 第1回「医療的ケア」委員会 会議録**

**日 時** 令和7年6月3日（火）13：30～14：50

**場 所** 乙訓総合庁舎 第2会議室

**出席者** 16名

乙訓ひまわり園、向日市社協障がい者地域生活支援センター、乙訓ポニーの学校、乙訓障害者支援事業所連絡協議会、乙訓福祉会、乙訓医師会、京都済生会病院、乙訓訪問看護ステーション連絡会、京都府立向日が丘支援学校、乙訓の障害者福祉を進める連絡会（3）、向日市障がい者支援課、長岡京市障がい福祉課、大山崎町福祉課  
オブザーバー 京都府済生会訪問看護ステーション

**欠席者** 4名

乙訓歯科医師会、京都府歯科衛生士会、乙訓の障害者福祉を進める連絡会（1）、乙訓保健所保健課

**事務局** 3名

**傍聴者** 1名

**配布資料・次第**

- ・令和7年度「医療的ケア」委員会委員名簿
- ・令和6年度「医療的ケア」委員会活動報告
- ・3号研修の周知に関するチラシ

**会議概要**

**自己紹介**

**1. 委員長、副委員長の選出について**

委員長 中村委員 副委員長 山本委員

※拍手にて承認

**2. 昨年度の取組の報告、今年度の取組の確認**

**(1) 医療的ケア児等への支援に関する施策・補助金についての学習会**

事務局 ・昨年度、医療的ケア児等への支援に関する施策・補助金についての学習会を行った。学習会を

踏まえて、それぞれの立場からできることは何かというところでアンケートをとった。集まった意見を報告させていただく。

・支援法ができてても利用が少ない、ないことが課題であり、情報が届いていない。制度や地域資源の住民への情報発信が大切ではないか。

・受け入れ体制の構築をする際にどのような関係機関と調整、連携したのか具体的な事例を知る機会を設けてはどうか。

・行政からの立場として補助金に関する詳細や要綱を確認して、電子データで担当課に情報提供を行うことができるのではないか。医療的ケアや医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律の概要をまとめて、担当課に提示する等の意見があがっていた。

・これらの意見を踏まえて、事務局としては医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者のフォローアップ交流会の中で養成研修修了者や2市1町の担当課を対象に、実際の事例があった2市1町に受け入れ体制を構築する際に、関係機関とどのように調整、連携したのかを聞く機会を設け、その後に具体的な事例の交流会を行うことができればと考えている。学習会を踏まえて、医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者のフォローアップ交流会で取り組むか、この委員会の中で意見を出し合えたらと思っている。

## (2) 乙訓在宅療養児支援体制検討会

副委員長・令和6年度の報告を事務局からお願いしたい。

事務局・本日欠席の金井委員より昨年度の取組の報告を書面でいただいている。代わって報告をさせていただく。

・乙訓保健所が主催する乙訓在宅療養児支援体制検討会はコロナからの再開2年目となり、地域の実態把握と関係機関との連携強化に努めた。保健所が把握する医療的ケア児の状況に加え、2市1町が把握する状況も共有し、支援の漏れがないように努めた。依然、就園に関しては保護者の希望があっても受け入れが難しいケースがあり、看護師の配置や通園手段の確保など地域全体での支援体制の整備が求められており、連携の大切さについて多くの発言があった。

更に医療的ケア児等コーディネーターの研修や配置についても京都府医療的ケア児等支援センター「ことのわ」(以下、「ことのわ」という。)より情報提供をいただき、地域でのコーディネート機能の重要性を共有した。会議終了後にも地域病院の医師から追加での意見交換の要望をいただく等関心が広がっている。今後も保護者や子ども達が安心して地域で暮らせるよう取り組んでいく。

副委員長・令和7年度の乙訓在宅療養児支援体制検討会に参加されたい方はいるだろうか。いないようであれば副委員長として参加させていただこうと思う。

委員・昨年は何回開催されたのだろうか。

事務局・昨年は1回開催されている。資料等を見たい方は基幹に連絡をいただければと思う。

・コーディネーターの配置についても話は出ていた。乙訓ではコーディネーター養成研修修了者が30名程、京都府では300名程いるという話だった。圏域で1人、コアになる人を配置するのが良いのか等を含めて検討していないといけないという話で終わっている。

### (3) 活動報告

#### 令和6年度「医療的ケア」委員会 活動報告

##### 4 今年度の活動 (1) 人材育成・周知活動について

##### 5 次年度の活動と方針 (1) 人材育成・周知活動について

副委員長・今年度の喀痰吸引等第3号研修（以下、3号研修という。）についてお願いしたい。

委員 ・10月中に実施したいと考えている。この後の喀痰吸引等研修プロジェクトで決めていきたいと思っている。

副委員長・3号研修に関するチラシの配布をしていく。今までこのチラシで3号研修の周知活動を行ってきた。今年も行っていくことになっているが、周知の対象の検討を行いたいと思う。

事務局 ・昨年度出ていた意見では、職員も代わるため同じところにもう一度回るのも良いのではという意見と、まだ行っていない学童に行ってはどうかという意見があった。新しいところを開拓していくのか、同じところを回っていくのか。他に案があれば教えていただきたい。チラシの内容の更新等も含めて考えていただければと思っている。

副委員長・周知活動のワーキングチームで確認させていただく。その中で具体的に進めていければと思う。周知活動で今年度も引き続き、あかりちゃん祭に参加する予定である。

委員 ・昨年度、周知活動であかりちゃん祭に行かせていただき、質問を受けて答える中で良い手応えを感じさせてもらった。普段車椅子の人と話す機会というのはなかなかないと思う。そんな中で子ども達は素直に何でも聞いてくれる感じがとても良かった。そこに対して壁がひとつなくなるような感じがした。ぜひ今年度も引き続き参加させてもらいたいと思っている。ただ、そこだけでは限られた人としか関われないので、もっと広げていく方が良いと思っている。昨年度のワーキングチームでは学校現場や教育の現場に入っていけたらという話をしていたので、より具体的に進めていけたら嬉しく思う。

副委員長・教育の場や他にも周知活動できそうなイベント等、ワーキングチームの中で検討いただければと思う。

・昨年度に福祉教育に繋げていけるような企画という方向性になっていた。引き続きワーキングチームで詳細を決めていくことになる。よろしくをお願いしたい。

##### 4 今年度の活動 (2) 医療型短期入所「春風」の利用に向けた準備

##### 5 次年度の課題と方針 (2) 医療型短期入所「春風」の利用について

事務局 ・4月28日に2市1町の担当者が代わったこともあり、医療型短期入所「春風」（以下、「春風」という。）と利用の流れを確認した。馴染みのヘルパーを使っての利用についてはどのように対応してもらえるか、「春風」で調整中である。

・利用状況は見学者は何名かおられたが、実際の利用はまだない。今後も引き続き対応していただく。

委員 ・いきなりお泊まりはハードルが高いが、馴染みのヘルパーと一緒に土日の日中活動の行き先のひとつとしてあったら良い。慣れていけばヘルパーなしでお願いできるのではないかと思う。そうすると先々お泊まりすることもできるようになるのではと思っている。ひとつずつ色々なハードルを親も子も施設の方も本人も超えていかないといけないと感じている。一番良いのは

近くにあるということ。近くにあるというのはすごく良いことだと思う。何かあった時に近くに手を差し伸べてくれるところがあるのは心強い。色々なハードルを私達の思い以上に、制度面でも超えていってもらわないといけないように思うが、「春風」が受け入れを申し出てくれているので、何とか早く色々なケースを受け入れられるように考えていけたら良いなと思っている。

副委員長・安心、安全に使える場所として連携していければと思う。

#### 4 今年度の活動 (3) 医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者のフォローアップについて

#### 5 次年度の課題と方針 (3) 医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者のフォローアップについて

委員 ・今年度も京都府の講師として参画させてもらっている。国の研修カリキュラムも変わってきている。今年度の内容もこれから検討していく形になる。演習中心でやっていく形になると思う。乙訓の医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者のフォローアップに関してはコーディネーター研修を受けて修了し、修了者という形で修了証をもらっている方、相談支援でも医療が必要な方の支援に対応できる支援事業所であることは要望しながら、支援している中で日々の支援の色々な課題や情報の共有の場として継続していき、ケーススタディを中心にやっていくのが良いと思っている。

・一方で、在宅療養児支援体制検討会の話の中でも出ていたが、施策として2市1町や圏域にコーディネーターを配置することについて、具体的にどのような役割の人をどのように配置するのかについては相談支援事業所連絡会の中でも2市1町それぞれ明確な方向性を出しているわけではなく、在宅療養児支援体制検討会や「医療的ケア」委員会で一緒に考えていけたらという話になっていた。そこに向けて医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者のフォローアップ交流会の中での議論や発信をもうひとつのテーマとして取り上げて話をしていけたら良いのかなと思っている。

事務局 ・「ことのわ」に今年もフォローアップ交流会に参加のお願いをし、了承を得ている。今年も「ことのわ」に関わっていただき、フォローアップ交流会をさせていただきたいと思っている。

副委員長・こちらもワーキングチームの中で考えていければと思う。

#### 4 今年度の活動 (4) 施設における口腔管理について

#### 5 次年度の課題と方針 (4) 施設における口腔管理について

副委員長・昨年度のワーキングチームでは口腔管理についての困りごと把握のために相談支援事業所との意見交流や、地域療育等支援事業を利用して事業所にその後についてアンケートを実施できればと考えていたが他に意見があればお願いしたい。

事務局 ・自立支援協議会の全体会が4月24日に行われ、家族会から頂戴した意見の中にこの件について触れられていた。この事業に関しては長年施設巡回が行われていて効果があがっていたが、今年はいよいよ予算がなくなるということで、「医療的ケア」委員会の中で検討してほしいという意見だった。「医療的ケア」委員会の中では引き続きワーキングチームで取り組んでいこうと思っている。

・全体会の記録をホームページにあげているので、見ていただければと思う。

#### 4 今年度の活動 (5) 医療的ケア児・者の生活を支えるために必要なことについて

#### 5 次年度の課題と方針 (5) 医療的ケア児・者の生活を支えるために必要なことについて

事務局 ・自立支援協議会全体会の中で、家族会からの意見の中にもあったが様々な診療科目で障がい児者の医療受診が難しいという問題について、一昨年度に家族会が医療についてのアンケートを実施している。この問題についてはぜひ乙訓医師会の協力をいただきたいというところで、課題を少しずつ解決できるように何らかの取組をしてほしいという意見があった。今年度この委員会の中でこの点について話をさせていただき、委員会の中でどのような形であげていくのかを話し合いたいと思っている。

委員 ・一昨年度に乙訓手をつなぐ親の会で会員を中心に 100 名程のアンケート調査を行った。医療的ケアだけではなく医療に関して受診をどんな風に行っているのか、困っていることは何なのか等、素朴に知りたかった。なぜ知りたかったのかと言うと向日が丘支援学校の跡地に共生型福祉施設ができることを踏まえて、そこに診療所がくるのではないかという望みがあった。この地域の中で本人も家族もどんな風に医療との関わりを行っているのか。診てもらうためにはどんなことに工夫をしているのか。受診ができなかったのはなぜか等、素朴な疑問を把握するためアンケート調査を行った。それについては行政や乙訓医師会にもアンケート結果を渡している。長岡京市の障がい者のひろばにおいても展示をさせていただき、結果報告もさせてもらった。障がいがあると医療との関わりが年々親も子も頻度が高まってくるが、なかなか地域の中で診てもらえる医師がいなかったり、医師がいたとしても本人の障がい特性において、そこに行けない、連れて行けないという悩みを持っている家族が多いと感じた。新しい共生型福祉施設も私達が願っていたものには直ぐにはなれないかもしれないが、なるべく近い将来、そこに行けば受診できるというようなことを考えながらアンケート調査を行っている。それを活かしてもらえると嬉しいし、また違う観点から違うアンケート調査をするのであれば当事者として、家族として協力できることはしていきたい。

委員 ・この中で出てくる「重度障害者就労支援特別事業」について、この委員会の中でも話をさせていただいたと思うが、今年度から向日市でもこの事業を始めていただけるようになった。私が仕事をする時にヘルパーが使えないという問題があったが、それがひとつ改善され、嬉しい報告があったので報告させていただく。

・「医療依存度の高い方の社会とのつながり」のところで、私が実際関わる方の中でも医療的ケアが必要な方で社会から孤立してしまっているような状態でもあったが、行政と個別の相談という形で話をする中で重度訪問介護のところを居宅介護と併給という形で、そういった運用の仕方を認めてくれたということがあった。その方もかなり外に出る機会が増えて、回復されつつある。個別の課題は他にも同じように困っている方がおられるように思う。ひとつの個別事例を地域の課題として考えていけるようなことができれば良いなと感じている。

委員 ・大きな病院が受診しにくい現状になってきている。選定療養費とあって、今までは紹介状なしで受診できていたような時代からまずはかかりつけ医を持ち、受診していただくという国の制度の中で、今までみたいに自由にアクセスしにくくなってきている。そうしないと医療が成り立たないという現状がある一方で、障がいを持っておられる方だけでなく、どんどん医療が変化していく中で、そこに合わせてどういう形で医療を提供できるのかを考えていかないといけない

と日々感じている。新しく診療所ができるのであれば、要請があった時にスムーズに繋いでいけるような役割として京都済生会病院の福祉相談室を活用いただければと思う。状況を見ながら、それに合わせてどういうアプローチができるのか、協議会でどういう発信ができるのか、その辺は個別の課題を地域の課題に繋げていくような取組をしていかないといけないと感じている。

副委員長・引き続き、意見をいただきながら具体的に検討できればと思う。

・「医療的ケア児等コーディネーターの配置」について、昨年度の最後の委員会で医療的ケア児等コーディネーターの配置については障害福祉計画で目標としてあげられているが圏域でどう配置するかは決まっておらず各市町で考え方も若干違うため、来年度以降情報共有の場が必要だという意見があがっていた。その他、報告事項があれば2市1町からお願いしたい。

委員 ・大山崎町では圏域でということと保健所も含めて2市1町で検討していくことで話をしている。具体的なことはまだ検討段階である

委員 ・長岡京市も大山崎町と同じ考えである。配置や具体的な役割についてはまだ検討ができていない状況である。これからこの委員会や関係機関が集まる中で考えていければと思っている。

委員 ・向日市も同じ回答になる。まだ検討ができていないので、これから検討していきたいと思う。

委員 ・コーディネーターの配置については2市1町とも計画の中であげている。来年度ぐらいには配置ができていれば一番良いが、圏域としての具体的な役割や形が検討できているという理解で良いだろうか。

委員 ・詳細がまだわからないところもあるが、圏域でやっていくというところで検討していきたい。

委員 ・設置すること自体はそれぞれ計画にあげてもらっているので、後はそれを具体的にどうしていくのか。この委員会もそうだが保健所でやっている在宅療養児支援体制検討会、こちらは2市1町それぞれ医療的ケアに関する協議の場という位置付けにもなっているので、この委員会と在宅療養児支援体制検討会とでどのような役割分担で、どのような形で連携をしながらやっていくのかということも計画的にやっていかないといけないように思う。在宅療養児支援体制検討会は子ども中心でこの委員会は大人中心みたいな形はあるが、有機的に連携ができていくのかというと、そこまでは詰められていないと思う。この協議をどういう風に進めていくのかロードマップ的なものを作っていくのか、次の2市1町の3年の計画にもう一度「設置を目標にする。」という計画が載って終わりになるような気がするので、この場でも考えていけたらと思う。

・福祉計画の関係で言うと、あくまでもこのコーディネーターの配置に向けた検討や準備、実際の配置をやっていく主体は2市1町で、ロードマップに関しても2市1町としてそこをどう整備していくのか発信してもらったうえで、それに向かって在宅療養児支援体制検討会やこの委員会等で検討のための素材を提供できるような形で一緒に考えるスタンスになるのだと思う。

・2市1町で残りの計画の期間の中でどういう風に進めていくのかということは具体的にスケジュールを考えてもらえるとありがたいと思っている。

副委員長・確認をしていただき、共有させていただければと思う。

・「長岡京市共生型福祉施設構想」については夏頃に説明会を実施予定と聞いている。

引き続き、情報共有をしていただければと思う。

## ・ワーキングチーム

**周知活動** 玉谷委員、大藪委員、稻田委員、丹上委員

**医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者のフォローアップ交流会**

尾瀬委員、金井委員、「ことのわ」、前川委員、山本副委員長

**施設口腔ケアについて** 高津委員、大橋委員、岩崎委員、塩田委員、和田委員

副委員長・これで確定とさせていただきます。よろしくお願ひしたい。

事務局 ・事務局は全部に関わらせていただく予定である。

### 3 その他

事務局 ・「ことのわ」がされている「京都府医療的ケア児つながろうわくわく交流会」というのがある。

7月6日（日）に行われる。今回は支援者も参加できるようなので、良ければ参加いただければと思う。

**次回** 7月31日（木）13時30分から 乙訓総合庁舎 第2会議室